



ふるさと

第27号

発行 / 宜野湾市役所 基地政策部 基地跡地対策課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1
電話 098-893-4401 (直通) Fax 098-892-7022
Eメール kichi01@city.ginowan.okinawa.jp
ホームページ <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/>

最新情報《平成 20 年度の取組み報告》

宜野湾市では、平成 13 年度から普天間飛行場跡地利用における地権者等の合意形成の円滑化を図るための場づくり、人づくり、組織づくり等の活動を長期的展望のもとに展開しています。

こうした中、平成 20 年度は、沖縄県・宜野湾市の共同で作成した跡地利用に関する提案「跡地の土地利用・環境づくりに関する提案 (キックオフ・レポート)」の情報提供や、これについての地権者・市民の方々からの意見聴取を中心に取り組みを行ってきました。

地権者の方々に対する取り組みとしては、「地権者懇談会、専門家を招いての講演会の開催」、「情報誌ふるさと」の発行や基地跡地対策課ホームページによる最新情報の提供、「地権者の若手世代の検討組織『普天間飛行場跡地を考える若手の会 (以下 若手の会)』」の活動に対する支援」を行ってきました。

また、今後跡地利用計画づくりを進めていく上で必要となってくる「地域 (地権者・市民) としての意向を集約する方策」、「専門家と連携・協力していく方策」などについても検討を行い、返還後のまちづくりに向けて準備を進めています。

このように、普天間飛行場返還の時期は定まっていますが、過去に行われた他地域跡地のまちづくり事例での教訓を踏まえ、返還前の今できることは事前に取り組み、返還後にはすぐにまちづくりが開始できるように準備を進めているところです。

【平成 20 年度の主な取組】



宜野湾はごろも祭りでのPR活動



神戸・三田・芦屋市視察会の実施
(若手の会・NB ミーティング)



「地権者懇談会」の開催



「若手の会・NB ミーティング
合同勉強会」の開催



「若手の会」の活動支援



「地主会役員と若手の会の意見
交換会」への参加・協力

《平成 20 年》

8月10日

宜野湾はごろも祭りでのPR活動

10月2日~4日

住宅地・都市拠点視察会

10月6日

第1回検討委員会

11月

跡地利用ニュース7号発行

情報誌ふるさと 25号発行

11月24、29日

地権者懇談会

12月6日

第1回若手の会・NBM合同勉強会

12月18日

第1回地主会役員と若手の会の意見交換会

《平成 21 年》

1月

跡地利用ニュース8号発行

2月

情報誌ふるさと 26号発行

2月3日

第2回検討委員会

2月7日

第2回若手の会・NBM合同勉強会

2月14日

地権者講演会

3月3日

第2回地主会役員と若手の会の意見交換会

3月4日

市内各種団体勉強会 (婦人連合会)

3月6日

市内各種団体勉強会 (自治会長会)

3月11日

第3回検討委員会

3月16日

市内各種団体勉強会 (建築士会)

3月17日

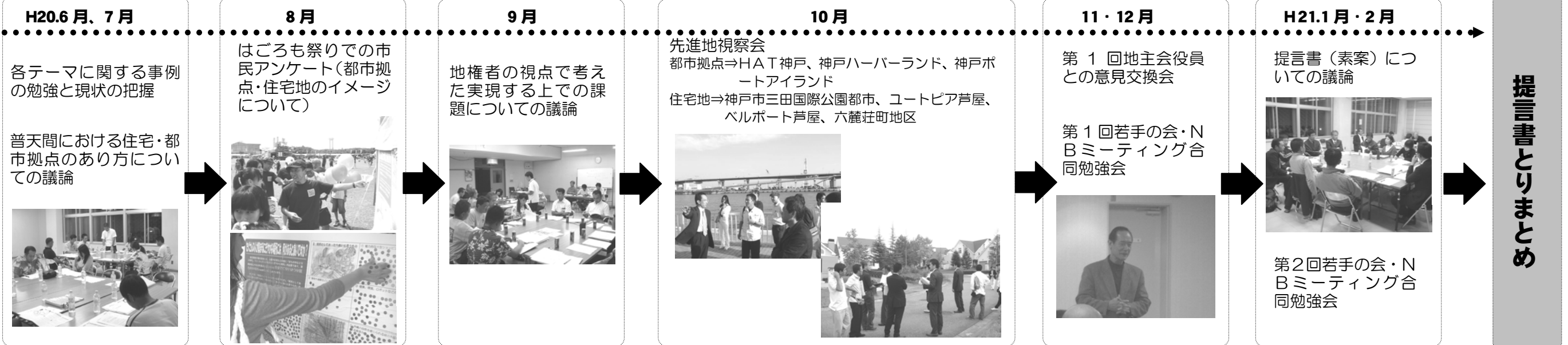
若手の会・NBM意見交換会

※なお、「若手の会」、「NB ミーティング」は毎月開催

若手の会が提言書「普天間飛行場跡地利用への私たちの考え」を作成しました

今年度「若手の会」では、跡地利用計画の検討分野である「都市拠点」、「住宅地」を検討テーマとして、分野ごとの2グループに分かれて普天間におけるあり方について議論を行い、その成果を「私たちの考え（提言書）」としてとりまとめました。特に、今年度の活動の特徴的な部分として、「地権者の視点で考えた実現する上での課題」やその「解決策」を検討し、昨年度よりもさらに「“地権者側からの提言”」として強く発信していくことを目標に、勉強会・意見交換を実施した点があげられます。今号では、提言書作成までの1年間の活動経過と、それぞれのグループの現段階での考えをまとめた提言書の概要について紹介します。

「若手の会」における提言書作成までの流れ



若手の会（都市拠点グループ、住宅地グループ）の提言内容を紹介します

【都市拠点グループ提言書】「普天間飛行場跡地利用への私たちの考え（都市拠点編）」の概要

★「市民」、「県民」、「県外・観光客」が集まる都市拠点として以下のものをつくる

①宜野湾市の公的施設を整備し、市民の交流の場をつくる

- ・警察、消防、医療機能の拠点づくり、高齢者にも配慮して公共施設を集積

②街中で暮らす便利さと優れた環境を提供する

- ・商業・公共の様々な機能を複合化、徒歩圏の拠点づくり、観光客も楽しめる公共交通、多機能複合型などの高層都心住宅

③緑が豊かな都会のオアシスとなる場をつくる

- ・中南部をカバーする規模の防災機能のある大規模公園

④県内の他の拠点にはない魅力を持った、人が集まり新しい観光地ともなる場をつくる

- ・ショッピングエリア、エンターテインメントエリア、文化施設エリアなどが一体となり、全体がテーマパークのような人が集まる拠点づくり、沖縄のシンボル

★今後の検討の方向性

- ・今後検討する上でのキーワードは「副都心」（必要な施設及び機能について検討）
- ・「交通結節点機能」、「シンボルとなる大規模公園」、「大規模公園とリンクした機能、施設」などについても検討
- ・副都心と他分野とリンクさせた検討を行い、さらに都市拠点像を明確にしてい

【住宅地グループ提言書】「普天間飛行場跡地利用への私たちの考え（住宅地編）」の概要

★「地権者」のための住宅地をつくる

⇒ゆとりある住宅地としていくために…

- ・垣根がなく、一つ一つの住宅がゆったりしている住宅地や「ナー（庭）」のある戸建住宅地をつくる

★「来住者（市民・県民）」のための住宅地をつくる

⇒生活利便を確保した住宅地としていくために…

- ・就業者のためのテレワーク住宅（在宅勤務用住宅）の供給など利便性を活かした都心住宅をつくる
- ・農作業が楽しめる市民農園のある住宅地をつくる

★「来住者（県外）」のための住宅地をつくる

⇒沖縄での新たな生活に応える住宅地としていくために…

- ・眺望の良い丘陵地を活かした住宅地や家庭菜園が楽しめるゆとりある区画の住宅をつくる
- ・沖縄で健康回復を目指す人のための短期的な定住、反復的な滞在ができる住宅をつくる

★「地権者」、「来住者（市民・県民、県外）」に共通した住宅地をつくる

- ・歩行者や自転車交通を優先した住宅地など安心・安全な住宅地をつくる
- ・緑や水等の自然を感じられる住宅や太陽光を利用したエコ住宅など、環境に配慮した住宅をつくる
- ・幅広い世代が集う交流空間のある住宅地など、コミュニティを重視した住宅地をつくる

「地主会」と「若手の会」のさらなる連携に向けて

「地主会」と「若手の会」による意見交換会が開催されました

平成 21 年 3 月 3 日（火）に、地主会役員と若手の会による「第 2 回普天間飛行場跡地に関する意見交換会」が開催されました。意見交換会では、若手世代が今年度作成した提言書（今号 2、3 ページで紹介）の内容が報告され、その後意見交換が行われました。地主会役員からは、「他の視点からも検討してもらいたい」などの要望が出されるなど、若手の会に対する期待の大きさが伺える意見交換内容でした。

主な意見交換の内容



役員の方々は返還されたあとに、跡地内の土地に実際に自分たちが住もうと考えているのかをお聞きしたい。（若手の会から）

今「住みたい!」という考えはないが、子供が独立したら子供のためにと思っている。新しい都市機能が跡地内にできて多くの人が移転することが考えられ、かえて既存市街地や住宅地は静かになって住みやすくなるので良いとも思ったりする。旧市街地と連携したまちづくりを含めて、もっと様々な考え方を望む。（地主会から）



その地域の教育水準が居住地を選ぶ一つの条件になる。那覇市は、自分の子供をこの学校に預けたら、非常に高いレベルの教育水準まで合格させることができるという環境が整っている。こういった基本的な親としての考え方があるため那覇市に人口が集中している状況があるので、このことも考えてほしい。（地主会から）

広範囲にわたって敷地面積を指定する規制をやってほしい。隣は300坪、その隣は50坪・・・こういったアンバランスな街並みでは、今まで通りのましかできない。個人的な意見としては、同じ大きさで規制してほしい。これをやらないと、新都心みたいなまちになる。

米軍基地内にあるような住宅はみんな同じ大きさなので見ても感じが良く、観光資源にもなると思う。（地主会から）



普天間の魅力や特徴を十分に活かした跡地利用を

池田教授を講師に招き「地権者講演会」が開催されました



前号でお知らせした「地権者講演会」が、平成 21 年 2 月 14 日（土）に、宜野湾市農協会館 2 階ホールで開催されました。講師である池田孝之氏（琉球大学環境建設工学科教授）には、他の跡地のまちづくり事例の紹介や、他地域事例の長所・短所を踏まえた「跡地利用を行う上で普天間が活かすべき点」、「留意すべき点」などについてご講演頂きました。今後も、様々なテーマでの講演会等を開催する予定ですので、その際には是非ご参加下さい。

